

日本教育岩手

● 〒020-0024 盛岡市菜園1-11-15

日本教育会岩手県支部 TEL 019-623-8100

● 代表 川村 祥平



教え、伝える者の責任

岩手県小学校長会 会長 川村 憲弘

(盛岡市立津志田小学校長)

ある日、授業をしているはずの時間に、なぜか職員室にいた児童に尋ねました。「どうしたの？」すると、「家に帰りたい。」まだ、時間は午前中、体調不良等ではありません。

また、普段授業中に校舎内を巡ると、何人かの児童が、相談室や保健室、児童活動ルーム（空教室）や通級指導教室入口のスペースでそれぞれの活動に取り組んでいます。本来教室で学ぶことが望ましいのですが、さまざまな理由で共に学ぶことが難しい児童が、特別な教育的支援を受けながら、学びを進めています。校内の教育支援センターとして、多様な場を設置し対応しています。

かつて、特殊学級（現特別支援学級）を担当していた時、「やらなくてはいけないことは苦手でもやる」「つらくても最後までやりぬく」という力を付けたいと願い、日々過ごしていました。そのことが、将来

役に立つ大切な力、必要な力と考えたからです。

また、GIGAスクール構想が進行する中、子どもたちの情報活用能力が高まっています。教室ではそれぞれの端末画面に集中する児童の姿が見られます。集中するのは良いのですが、教師や友だちが発言している時、視線は画面に集中したままです。さらに、自らの声で発言する機会を求めている、活発に意見が出ないのですが、チャットを使って意見交換させると驚くほど意見が飛び交う様子も見られます。将来、社会に出た際、自らの意思を言葉で表出しないといけない機会があるはず、そう考えると少し不安になります。

これまで、「話を聞くときは、話をする人を見て聞く」、「自分の意見は手を挙げて発言する」と指導してきました。今の子どもたちにその

意識があるかどうか、その指導が十分かどうか、不安になります。

教育は、教師と子どもたちとの全人格的な触れ合いの中、人格の完成を目指し、成長を促す営みです。学校では、豊かな人生を切り拓き、社会を創造する人となってほしいという願いから、また、将来必要とする力や役に立つ力を身に付けてほしいという願いから、一人ひとりの子どもたちの可能性を引き出す教育を推進しています。社会の急激な変化に伴い、教育に求められるものも変化しています。多様性を認め合うことが求められる中、大切にしたいはいけないものや、生きていくための力として必要とされるものは、変わらず存在していると考えます。

私たちには、将来を生き抜いていく次世代の担い手を育てているという責任があります。本来、教えるべきことを教えない、伝えるべきことを伝えないということがないよう、子ども一人ひとりに寄り添うことで児童理解を深め、身に付けたい力や目指す姿を意識した指導に努めていきたいと考えます。

講演会の概要



近未来の学校教育を考える

学力観・授業・教師はどう変わるのか

東京学芸大学 理事・副学長
先端教育人材育成推進機構長

佐々木 幸 寿

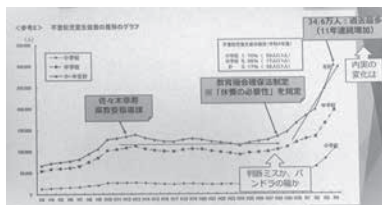
はじめに

東京学芸大学の佐々木幸寿と申します。私は、大学卒業後、野球の監督になりたくて岩手の高校教員になりました。盛岡南、釜石工業、黒沢尻北、一関第一で指導に携わりました。監督としても、教師としても、特別な才能や業績はありません。その後、県教育委員会事務局に6年間お世話になりました。46歳の時に、縁があつて信州大学に転出し、さらに、東京学芸大に移り現在に至っています。

今日は、昭和の古い人間として今の学校教育の状況で懸念していることと、研究の最前線にいる立場から学校がAIで大きく変わっていく可能性について話したいと思っています。

今の学校教育の状況

現在、不登校がどんどん増えていて、留まるところを知らず、底が抜けてしまったように増加しています。このまま学校教育は崩壊していくのではないだろうかと心配になります。



不登校の増加

たことで数が増えたことと捉えています。認知件数の増加は教師の業務負担増に直結します。教師の業務負担が際限なく増えているいじめ対策の現状を新たな課題として共有する必要があります。また、友だち間のトラブルなどは、本来、子どもた

不登校はある時期を境に急増しました。教育機会確保法が制定され、「休養の必要性」が明記されたことで、教師たちは登校を促しにくくなったことが一つの原因ではないかと思えます。不登校は、特別のことではなく、その指導は一種の混乱状態にあるのかもしれない。心理の専門家であるスクールカウンセラーの配置が拡大しています。不登校の数は同様に増えています。学びの場としての学校の役割を、あらためて真剣に考えるべき時期にきているように思います。

一方、いじめ認知件数も、いじめ防止対策推進法ができた頃から大きく増えてきています。文科省はいじめが増えたわけではなく積極的に認知するようになってきたことで数が増えたことと捉えています。認知件数の増加は教師の業務負担増に直結します。教師の業務負担が際限なく増えているいじめ対策の現状を新たな課題として共有する必要があります。また、友だち間のトラブルなどは、本来、子どもた

定義の下でこれらが法令の中に取り込まれ、大人の仕事になってしまい、子どもに返し切れなくなっています。法的に対処すれば、いじめは自ずと解決していくなどという想定は現実には通用しません。法律だけに依存することなく、学校や教師が教育の専門家として指導や介入の在り方を自ら判断していく必要があります。

また、いじめ対応の基盤となる「人権」の言葉も安易に使われているように思います。現実の人間の能力や環境の状況は決して平等ではない。対等なものとしての「人権」は、現実には存在するものではなく我々が作り上げてきた「社会的信念」に過ぎません。社会を支える重要な価値として次代の子どもたちに伝える不断的努力なしでは、共有されない性質のものであることをあらためて確認する必要があります。

不登校やいじめは底が抜けてしまったのだろうか、元の状態に戻すことができるでしょうか。難しいかもしれませんが、国の施策を踏まえながらも、目の前の子どもたちにそのまま直接適用できるものではあ

ちの中で折り合いを付けるべきものですが、「いじめ」の主観的な

りませんし、実際に責任を負うのは、学校であり、教師です。学校、市町村教委、県教委はそれぞれの立場から勇気を持って主体的に決断し、行動していく時期に来ていると思います。

義務教育のシステムは、学校への就学を強制的に求める「就学義務」、学習内容についての基準である「学習指導要領」、教員の質を担保する「教員免許制度」の三つの要素を基盤として、これらが一体的に運用されることで維持されてきましたが、これらの基盤が、いじめや不登校などの問題の深刻化の中で大きく揺らいでいます。中央教育審議会の教育課程部会で次の2階建てモデルの学習指導要領が議論されています。1階部分は学校裁量の時間を作り、2階部分で個々の児童生徒にに応じてカリキュラムを作っていくということが検討されています。学校システムを維持するために教育課程は多様で、包括的なものに変わっていくそうです。それぞれの学校、教育委員会の裁量的判断がポイントとなり、そこに新しい意義と難しさがあるように思います。

AIは学校を変える

次に、AIなどの先端技術の学校教育への展開可能性について話します。東京学芸大学は附属学校が11校あります。大抵の国立大学附属学校は公立の先生の異動先

の一つになっていますが、本学は教師を大学として直接採用しており、実験校、研究開発校としての性格を強くもっています。

現在力を入れているものとして、AIを活用した個別最適な学びの実現と教師の授業力の向上のための研究開発があります。生徒の成果物を評価するにはそのための評価規準、ルーブリックが必要ですが、体系的なルーブリックを作れるのは一握りの力のある先生だけです。しかし、AIに学習指導要領等を読ませれば短時間であつという間にできあがります。指示に従って観点を設定し、5段階などの水準別に評価の物差しを作ってくれます。生徒の文章を読ませると、AIが評価案を作成し、さらにはどう指導したらよいか、生徒にどういうふうに戻したらよいかという教員向けの提案もしてくれます。子どもの個性に応じて、フィードバックの仕方も変えられます。また、クラス全体の評価、授業での生徒の達成状況の特徴を析出することができ、授業設計など次の授業のサジェスションも出せるようになってきています。

次の課題として、個別最適な学びに大きな影響を与えると注目されている非認知的な能力をどのようにに評価していくかについてルーブリックを作ろうとしております。飯のものを作って子ども同士の会

話の音声データをAIに読ませて対話において非認知的能力がどういうふうに出現するかを評価することから取り掛かっています。

もちろん、現状ではAIはブラックボックスのアルゴリズムで動いているに過ぎませんので、しっかりと指導力と判断力をもった教師による確認や修正が不可欠です。そのような前提を確保した上でですが、AIを活用すれば、一瞬で子どもたちの状況が理解できるし今まで目配せできなかった観点が明らかにするなど、先生方の能力は圧倒的に拡張されます。一方で、効率化、省力化に陥ることは危険であることに留意すべきです。教師の代わりにAIにやってもらおうということではなく、AIを使って自身自身が成長していくという観点で使う前提が大事です。

また、現在、探究的な学びを先生がどのように支援できるかというところに研究が移ってきています。このためのルーブリックを開発し、伴走者としてファシリテーションする力をつけるシステムを作っているところだ。レベル1から5まであり、1「生徒の問いを深めることを意識しているが質問が一方的、また表面的になりがち」、2「生徒の問いに対し多角的な質問を投げかけようとしている」3「生徒の答えを引き



熱弁の講師

出すために質問やコメントを工夫している」4「生徒の思考を深めるだけでなく発言から新たな問いを見つけて深めている」5「生徒の思考を深める壁打ちの経験から問いや思考の解像度を高める指導論を形成している」というレベル感です。AIは生徒の探究的な学びの形成的な評価と伴走者のコーチングスキルの評価とアドバイスを出力していきます。先生方にはAIで壁打ちしながら力を磨いてほしいと思います。

AIに効率化を求めるのではなく、自分が成長し、指導の質を高めるという視点で使えば大きな効果が期待できます。しっかりと活用方針を作れば、AIの活用で教師の資質能力は間違いなく向上すると思います。

また、AIは、市町村教育委員会の教育大綱や学校のポリシー、年間指導計画を評価することができ、政策や学校経営の診断にも活用できます。

これまでのシステムが壊れ、混沌とした状況は、「システム思考」「秩序思考」の人に

とってはつらい時代です。むしろ、ありのままの自然の中で、人間としての自分の直観を信じ、進むべき道

を探しながら未来を創造していくという姿勢が重要なのだと思います。

おわりに

前半は従来の学校システムが動揺する中で、それぞれが勇気をもって自律的に決断し、行動していくことの意味について、後半はAIなどの最新技術の教育実践や教師の職能成長への展望について話しました。将来が見通せない混沌とした不透明な時代です。システム思考、秩序思考から抜け出して、一歩踏み出し、前進しながら考えるという姿勢を大事にして行きましょう。

【質問】

小規模校が多く複式学級もある岩手県の置かれている状況でAIはどのように活用できるでしょうか。

【回答】

人口が減少し、小規模校の多い岩手県は、ある意味で変革に向けた先進地です。AIを効率的に使うという観点ではなく、教育の質を高め、自らの成長を図るという姿勢で臨めば、新しい時代を切り拓くトップランナーになれるはずです。これからの10年、20年が非常に大事な時期です。時代の変化に臆せず、ファーストペンギンとしてやりがいマイナセットに組み込んで時代に立ち向かってほしいと思います。

第33回 学校心理カウンセラー 研修講座 in 盛岡

今年度の（公社）日本教育会主催「第33回学校心理カウンセラー研修講座」が8月5日から7日までサンセール盛岡で開催され、全国から117名、岩手県からは37名の参加を得て行われた。3日間熱心に集中して受講する姿が見られ、グループでの演習も和やかな雰囲気で行われていた。

岩手県支部ではこれまで東日本大震災津波で児童・生徒の心のサポートが重要な沿岸地区からの参加者に助成を行ってきたが、今年度からは、対象地区を広げ、今回は三戸地区会・気仙地区会からの参加者4名に助成を行った。



研修講座の様子

学校心理カウンセラー研修講座 報告

盛岡市立北松園中学校

校長 立柳 容子



学習・集団不適応、不登校、人間関係トラブルなど、生徒指導と教育支援を包含する問題が多い中、教育相談の重要性を再認識できた本研修講座でした。管理職として、学校教育現場のあらゆる場面で生徒の多様な表情や言動を見聞きし、各担当から情報を収集した上で、問題を抱える生徒の指導・支援の方向性を決定することが多くあります。今あるチームの人材を最大限に生かし、生徒にとって効果的な組織的対応はどうあるべきか、学びの多い研修講座となりました。

教師は子どもと面接する際、言葉での表現がむずかしい生徒を待てない時があると指摘がありました。都合の悪いことから話を逸らしたり、沈黙したりする子どもを待ち、「なぜ、そうしたのか」ではなく「何があったのか」と時系列で本人の気持ちを聞く工夫を重ね、保護者も援助資源ととらえ、いっしょに解決方法を考えていくというスタンスをもつことが大切だと感じました。また、組織として「なりかけチーム」「にせチーム」「ほんものチーム」という段階が

学校心理カウンセラー研修講座 報告

大船渡市立立根小学校

教諭 立花 由利



今回の講座は、今までの教師としての自分のあり方を見直す良い機会となりました。

子どもが楽しく学校生活を送るための三つの条件を学びました。
①よい人間関係があること
②楽しい経験をしていること
③価値のあることを達成できていること

学校を休みがちな子へどう働きかければよいか悩んでいたところだったのよいヒントとなりました。親への対応の仕方今までの自分の考えを180度方向転換することができました。自分の子どもだったかどうか立場を代えて対応したり、困難な状況にいる子

チーム」を目指したいと目標が定まりました。

さらに、社会性と情動は、学校適応や学力の根幹をなし、現在在意図的・計画的に育成する必要があることや、学校行事や学習と関連付け、学習したスキルを実践で活用する場の展開により大きな効果が上がることに、学校経営のヒントをいただきました。

どもの家族も大変な思いをしていることを理解したりしながら聞く大切さを学びました。

そして、チームとしての大切さです。教師一人ひとりの得意分野をお互いに認め合い、それを生かせる学校にすること。逆にうまくいったことなど自慢話をしたり責任転嫁になったりしないこと。そして目標を共有し、自由な討論ができるような職場が大切だということを学びました。このことは、ケース会議のもちかたのヒントになりました。

今回の学びを校内でも共有したいと思います。

岩手教育振興基金 寄附者御芳名

(敬称略)

○県小学校長会 ○県中学校長会

▼盛岡地区 (2名)

三上瑞穂・小原健也

▼岩手地区 (7名)

北田伸・豊川浩子・後澤大世

小野寺光夫・熊谷一史

佐藤公一・石関由香

▼花巻地区 (6名)

及川芳昭・小野寺広樹

菊地綾子・田口ひろみ

鈴木恵・渡邊康二

▼遠野地区 (3名) 山本千和子

高久和則・上館敦彦

▼北上・和賀地区 (3名)

黒澤和則・工藤千秋・泉田学

▼胆沢地区 (7名) 杉田哲朗

浅野純一・菊池伸・八重樫泰規

和田成枝・城守崇・坂井ふき子

▼江刺地区 (1名) 橋場和江

▼一関西地区 (3名) 中村美佐

福岡喜久子・菊池知子

▼一関東地区 (8名)

松田薫・岩越裕史・金野敬之

山戸貴義・菊池知之・坂本真

大道篤史・齋藤真

▼釜石地区 (5名)

松本孝嗣・高橋美友紀

高橋昭英・高橋晃一・安部広一

▼宮古地区 (5名)

齊藤智彦・似内織江・吉田智

佐藤宏行・千葉重徳

▼下北地区 (2名)

宮本和典・澤柳直子

▼九戸地区 (5名)

伊藤博光・竹林直美・富手冬樹

今津みどり・小松順一

▼二戸地区 (6名)

鈴木玲子・須藤研一・高橋克己

村上花恵・小原亮・川村文孝

(計63名)

○県小中学校副校長会

▼盛岡地区 (3名)

新沼泰起・佃智之・松坂郁子

▼岩手地区 (2名)

畑中有香子・寺山大裕

▼花巻地区 (3名)

松村毅・及川修・山本淳

▼遠野地区 (1名) 佐々木正輝

▼北上・和賀地区 (4名) 佐藤綾

工藤雅巳・伊藤玲子・米倉正志

▼胆沢地区 (5名)

吉田澄江・駿河秀一・名飯亮子

佐藤和行・菅崎真里子

▼江刺地区 (3名) 小野寺良明

山本のり子・横田堅太郎

▼一関西地区 (6名)

小森篤・岩清水裕行・金野幹子

細川貴史・菅野剛英・小野寺浩二

▼一関東地区 (7名) 小原ひとみ

市野川知代・阿部智央・甘竹浩枝

石川純・及川秀明・佐々木済通

▼気仙地区 (1名) 酒井伸一郎

▼釜石地区 (1名) 菊池恵子

▼宮古地区 (5名)

伊藤和絵・佐藤真也・岩淵陽

多田恵慈・伊藤茂樹

▼下北地区 (3名) 池田幸子

小澤史男・佐々木朋美

▼九戸地区 (9名)

菊池真人・菊池勝彦・外館洋文

高橋省一・小岩智和・菊池新司

信夫辰規・熊谷香織・齋藤剛

▼二戸地区 (6名) 秋澤美加子

工藤咲香・新山留美子

橋本淳史・柴田敬恵・高橋修

▼県立中 (1名) 菊池和裕

(計60名)

今回は、(公財)岩手県育英奨学会へ1万円のご寄付をいただいた令和7年度新任小中学校校長の方々と、同じく1万円と岩手県教育振興基金に5千円のご寄付をいただいた令和7年度新任小中学校副校長の皆様を紹介いたしました。多額のご支援・ご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

訂正しておわびします (第203号)

▼4ページ「いわての教育実践研究」その19」の表題で「自立と社会参加」に向けた地域共同活動」とあるのは「感じ、考え、夢中になって遊ぶ幼児を育む」の誤りでした。

▼7ページ「講演会報告」の中で「太田浩隆」氏とあるのは「村田浩隆」氏の誤りでした。

岩手県高等学校長協会 会長
理事 **中村 智和 氏**
(岩手県立盛岡第一高等学校長)

スポット その188

中村智和校長先生は、今年4月、本校第43代校長として着任されました。校長先生は昨年度まで県教育委員会事務局に勤務され、高校教育課長の要職に就き、県立学校と連携をと



りながら高校入試改革、探究STEAM教育、遠隔授業など今日的な教育課題に取り組むなど、学習指導要領をもとに高

新聞記事にて毎日朝晩ラニングをしていると紹介されていましたが、校長先生曰く、本当は週末にしか走っていないとのこと。本校の個性溢れる生徒に負けず、充実した日々を過ごされています。(副校長 高橋健)

地区会だより



胆沢地区会

胆沢地区会は、今年度新たに佐藤健司先生を会長に選任し活動を行っております。

7月18日（金）水沢グランドホテルを会場に、令和7年度胆沢地区会総会・講演会及び親睦会を開催いたしました。今年度より、参



講師の藤波大吾氏

加人数の拡大を図るとともに、会員の皆様等からの要望もあり、本会の開催を平日としたところで、当日は、ご来賓をはじめ終身会員や小・中・高の会員等が、総会へ52名、講演会へ56名、親睦会へ43名参加いたしました。はじめに、総会にて昨年度の報告を行うとともに、今年度の活動方針や役員の変更等について審議いたしました。

その後、妙見山黒石寺の藤波大吾住職より「心・頭・体」と題してご講演をいただきました。人は「理想」と「現実」の差が大きい程そのギャップに悩んでしまうもので、それが「焦り」や「不安」につながってしまう。さらに見栄を張ったり、自分を責めたりすると余計しんどくなってしまうがち。そんな時には、「理想」を下げて五合目あたりの景色を楽しむと「心」が安らぐと説かれました。先生方には、ぜひ元気に、生き生きと、自分自身を労わりながら子どもたちと相対してほしいと結ばれました。

続く親睦会では、来賓、終身会員、現職会員等の区別なく、思い出や近況等に花を咲かせ、大いに語り合いました。とってもいい夜でした。

（事務局長 大森 啓睦）

一関東地区会

8月5日（火）サンプラザ及善別邸「ザ・エスプリ」において、総会と講演会、懇親会を開催しました。総会には、45名の参加がありました。

講演会では、岩手県立図書館長・岩手大学地域防災研究センター客員教授である森本晋也先生から、「故郷の復興・発展を支える人づくり」と題して、ご講演をいただきました。先生は、一関市立千厩中学校にご勤務された経験があり、終身会員による演題の書や演題飾りの盆栽鉢が寄せられ、とても温かな雰囲気の中で行われました。

講演では、能登地震による被害の状況と復興に向けての取り組みや釜石東中学校の防災教育について、豊富な資料でご説明いただきました。釜石東中学校の防災教育のねらいは、「自分の命は自分で



新会員紹介

守る」「助けられる人から助ける人へ」「防災教育の継承」。生徒が地域と連携しながら、主体的に活動する事例は大変参考になりました。更には、生徒の振り返りを大切にし、防災教育の意義を確認しながら進めていきました。いわての復興教育を推進するため、県立図書館のイールームでは、出前講座やオンライン学習も行い、活用の広がり期待されています。子どもたちの命を守るために、防災教育を大切に進めていく重要性を再認識した貴重な講演会となりました。

（事務局長 菊地 桂子）

下北地区会

6月9日(月)岩泉町民会館で下北地区会の総会を開催いたしました。現職を中心に19名の参加でした。今年度の研修会は12月3日(水)龍泉洞温泉ホテルを会場に特別支援教育をテーマに開催予定です。

昨年度は11月29日(金)龍泉洞温泉ホテルにて研修会を開催しました。秋田県歴史教育者協議会会長の茶谷十六氏を講師にお招きし、「今、南部三閉伊一揆から受け継ぐべきもの」と題してご講演をいただきました。茶谷氏は三閉



講師の茶谷十六氏

伊一揆の歴史を調べるために何度もこの三陸沿岸の地域を訪れたそうです。一揆の背景にある民衆の誇りと協同の力を熱く語っていただき、大変心を打たれました。南部三閉伊一揆は、幕末期の重税や悪政に苦しむ三陸沿岸の農漁民約1万6千人が立ち上がった大規模な一揆です。各村々が連携し、鉄砲や竹槍を携えたたたきも加わり、整然と行進して唐丹の藩境を超え、仙台領へ越訴しました。要求した49カ条のほぼ全てが受け入れられ、おとがめなしという非常に希な一揆であるとのことでした。

研修をとおして、この地域の民衆の誇りと粘り強さ、指導者の覚悟、そして自治の力に深く感銘を受けました。

現代に生きる私たちも地域の声を結集し、より良い社会を築く姿勢が求められていると感じました。

(事務局長 岩間 徳次郎)

二戸地区会

8月7日(木)に、「二戸市シビックセンター」において、令和7年度二戸地区会総会と講演会を開催いたしました。総会において、令和6年度の活動報告、令和7年度

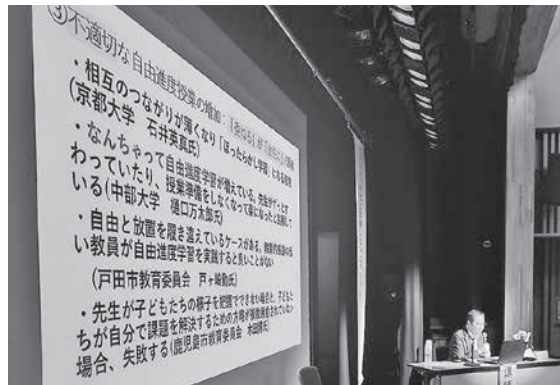
の活動計画等についての議案審議が行われ、二戸地区会の学校減(6校減)による規約の改正も承認されました。

講演会には、終身会員と現職会員合わせて66名の参加がありました。講師として九戸村教育長の高橋良一氏をお招きし、「2020年代に目指したい九戸村の義務教育について」と題して、ご講演をいただきました。

ご講演では、ご自身の経歴(大学時代・教員時代、ご自身のボクシング選手時代や部顧問時代のことなど)を当時のエピソードを交えながらお話され、その後、現在、九戸村において重点として取り組んでいる「自由進捗学習」について、詳しく解説いただきました。

「自由進捗学習」とはどのような学習スタイルなのか、導入するにあたって留意すべきこと、懸念されることや課題などについて、先進校の事例も紹介されながら様々な視点からお話しいただきました。特に「委ねる」と「放任」の違いについての内容は、私たちの指導観とも関わり、深く印象に残っています。「自由進捗学習」についての学びや気付きの多い貴重な研修の機会となりました。ご支援・ご協力いただきました

関係各位に深く感謝申し上げます。
(事務局長 佐瀬 智洋)



講演会の様子

令和7年度 第50回全国教育大会

大阪大会

「自らの頭で考え判断し表現する力を育てる教育」を大会主題として11月1日大阪市内で開催されます。

今大会では、北上市立黒沢尻幼稚園の山本ゆかり園長が幼稚園・こども園の部で提言を行います。

次号で大会の様子を紹介します。

「地域と共に育む舞川の子」

一関市立舞川小学校 校長 福岡 喜久子



舞川小学校区には、みちのくあじさい園や日本の原風景を残す金山棚田など、魅力的な自然が多く、本校は一閑遊水地を挟み須川岳に対面した小高い丘に位置しています。「郷土をこよなく愛し、たくましい実践力を持つて、主体的・創造的に生きていく、心豊かな子」を教育目標に掲げ、「命を大切にすること」「あいさつでつながること」「学びを楽しむこと」を具体的な姿として子どもたちと共有しています。73名の子どものみならず、縦割り班活動である花壇づくりや清掃を行う中で学年の枠を超えた協働を経験し、互いを思う心が育つてきています。本稿では、開校当時から続く「花壇づくり」と「伝承活動」について紹介します。

1 花壇づくり

12の縦割り班ごとに1つの花壇を作っています。土起こしやマルチ張りなどの花壇の整備は、民生児童委員や女性団体連絡協議会の皆様にお手伝いいただいています。高学年は、低学年の子どもたちに手を添えながら丁寧に花の苗を植



五感で楽しむ「秋の花を観る会」

2 伝承活動「舞川鹿子躍」(県指定無形民俗文化財)と「鶏舞」(市指定無形民俗文化財 蓬田神楽)

本校では地域に伝わる二つの伝承活動に取り組んでいます。3年生になると、上の学年と一緒に各お師匠さんに教わります。命の供養の踊りであることや神様への奉納の舞であることを意識しながら、細かい足の運びや視線にも気を付けて練習します。これがかなり難

えです。春はそよ風に揺れるチュウリップを、秋は暑い夏を力強く根を張ってきたサルビア、コキア等を、地域の方々と一緒に観る会を開きます。地域の方々に「〇〇さんちのお孫さんだね」と声を掛けていただき、つながりを実感するひと時でもあります。

しいのです。しかし、幼いころから耳にしてきた太鼓の音に合わせ踊る子どもたちは、激しく、優しく輝いています。学習発表会では、校庭で地域の方々にも披露します。昨年度、本校は30周年を迎えました。今年度は、地域の方々と共に、東北の郷土芸能をテーマにした体験型インスタレーションにより「鹿子躍」「鶏舞」の世界に浸る記念行事を行う予定です。地域の方が踊る二つの伝承芸能を観賞し、踊りに込められた願いも学びます。

地域の方々の温かい思いと誇りある舞川の伝統に支えられ、子どもたちは素直に生き生きと学習に励んでいます。これからも子どもたちが地域の一人としてつながり、自己実現するための学びを深められるよう、教職員が一丸となって教育活動の推進を図って参ります。



躍動感あふれる学習発表会での鹿子躍

山寺の鐘

「戦後80年」の今年。学校でどう取り上げただろうか▼朝ドラ「あんぱん」を欠かさず見て

いた私は、近頃戦争について考えることが多かった。アンパンマンも鉄腕アトムも平和を祈る思いから生まれた作品▼私の亡き母は女学校時代に岩山の開墾をしていた時、B29による盛岡駅周辺の攻撃で、自宅が焼かれるのを目撃している。よく考えてみると、遠い昔の話ではないと思えてくる▼全校朝会で戦争の話をしようと思ひ、広島や長崎の原爆の資料を探した。黒焦げになった電車の中で、吊革を握りしめて立ったまま骸骨になった人など、ものの3秒で地獄になった様に心が苦しくなった▼使われた広島・長崎の2発の他に、現在地球上にある原子爆弾は1万2千発を超える。いつの日か地球に生命が消えてなくなるかもしれない恐怖▼被爆国日本。子どもたちの心に迫る戦争の話を、平和への願いを、私たちは語り繋いでいかなければ！と強く思った。

(盛岡市立米内中学校 校長 藤尾 佳子)